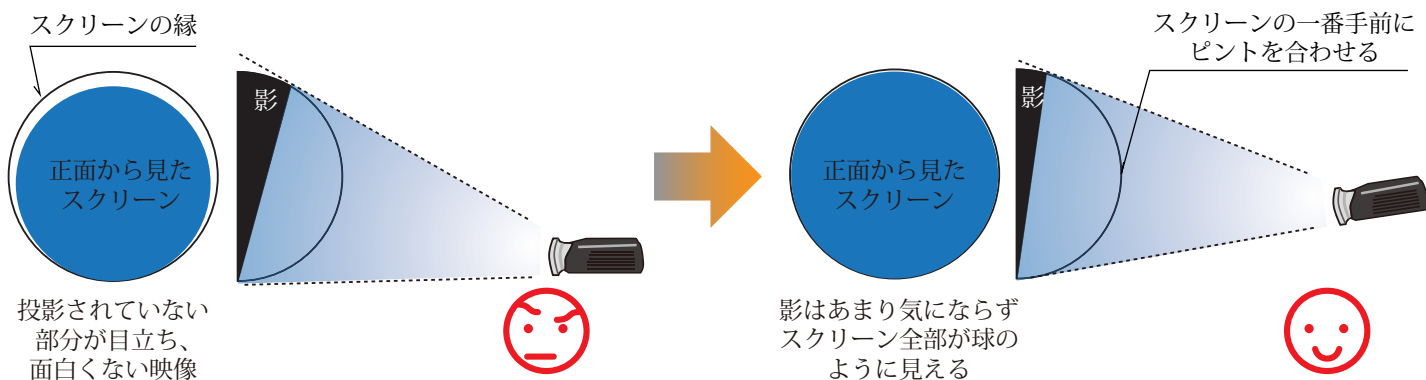


プロジェクターの設置で変わる見え方



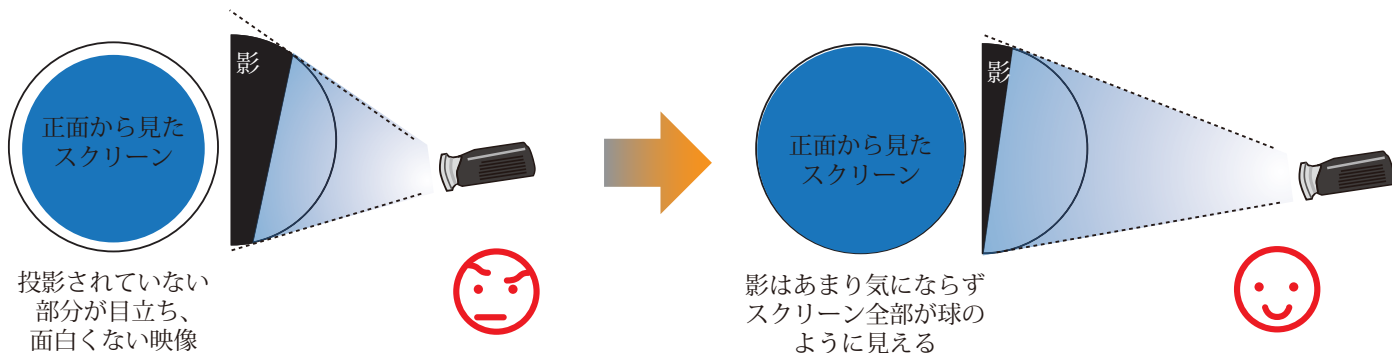
プロジェクターは、上向きにあおるように投射するようになっています。

立体スクリーンを使う場合、プロジェクターを水平に設置するとスクリーン自体が影となり、投影できない影（映らない部分）が多くなります。スクリーンが見えてしまうので白けてしまい、錯視感がなく、あまり球体には見えません。



プロジェクターの後ろ側を上げて設置すると、より影の少ない投影が可能となります。

プロジェクター焦点タイプで変わる見え方



短焦点プロジェクターは狭い場所でも設置でき、焦点距離が近く明るい投影ができる利点があります。

しかし、立体スクリーンの場合はスクリーン自体が影となり、投影できない影が多くなります。スクリーンが見えてしまうので白けてしまい、錯視感がなく、球体には見えません。不向きです。



普通焦点プロジェクターを使うと、より良い投影が可能となります。

※ 鑑賞者が床に座って下からスクリーンを見上げるような場合は、プロジェクターを低い所に設置し投影。逆にスクリーンを見下ろすようにしたい時は、プロジェクターを高い所から投影するときれいです。つまり、鑑賞者の視線の高さ・角度とプロジェクターの中心線を揃えるように設置すると一番きれいに投影できます。

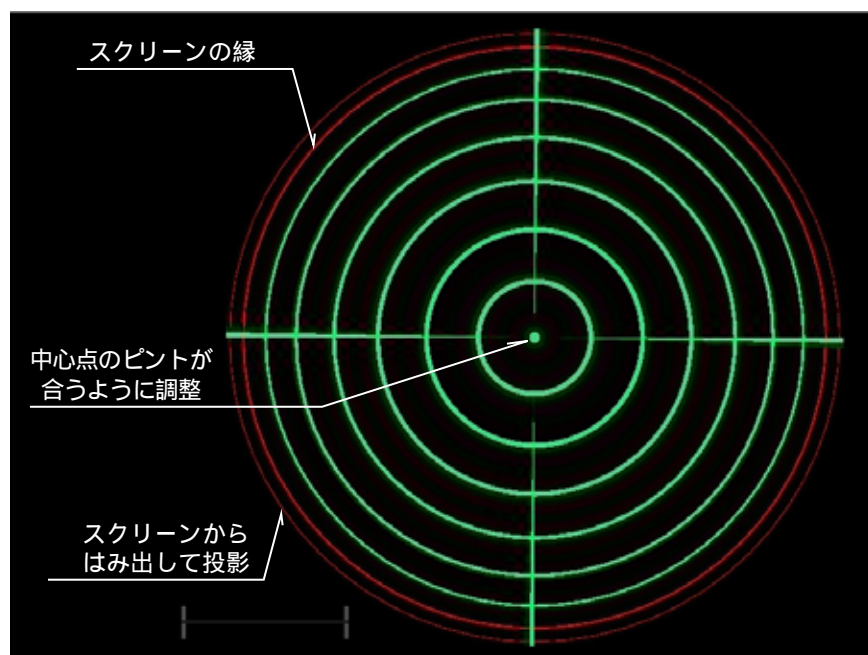
立体スクリーンの画像投影の位置調整

全画面表示で、調整用テスト画像やダジック・テスト画像コンテンツを使うと、投影の位置調整がしやすいです。

例えばテスト画像の場合、スクリーン正面から見て上下左右の中心位置を合わせ、スクリーン縁にテスト画像の内側の赤円、スクリーン背部の壁に一番外側の赤円が投影されるように位置調整すると、きれいです。

地球画像とスクリーンはぴったりとは重なりません。画像がスクリーンから、ほんの少しはみ出すくらいがちょうど良いです。

最後に、緑色中心点がスクリーン頂点（一番手前側）でもっとも鮮明に映るように、ピントを合わせてください。



調整用のテスト画像